

岩手県感染症週報

平成28年第10週(3月7日～3月13日)

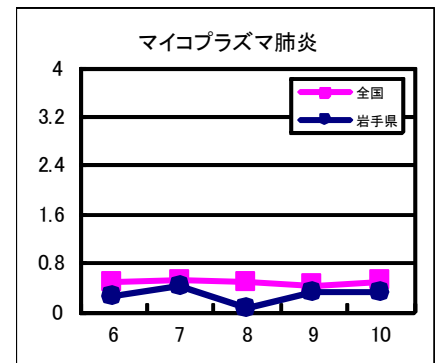
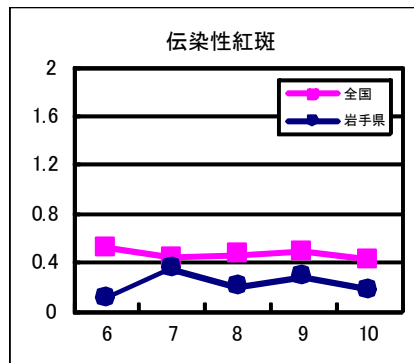
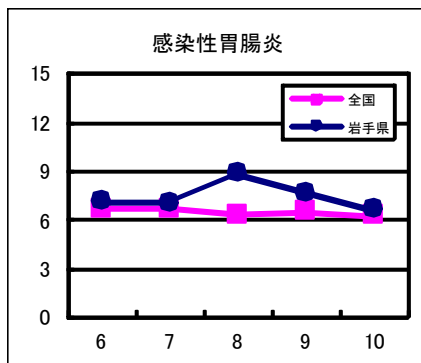
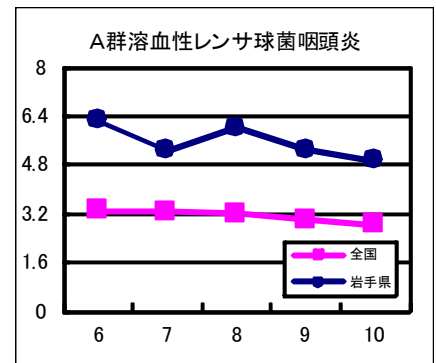
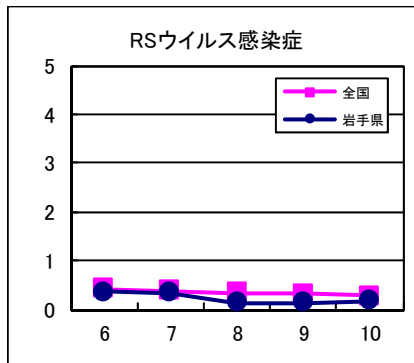
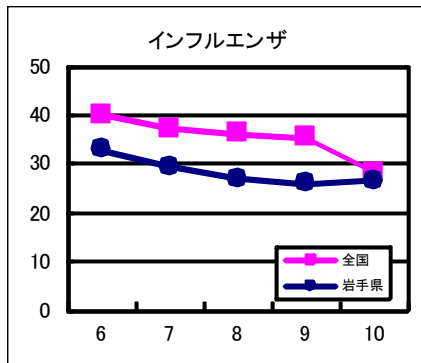
岩手県感染症情報センター

第10週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が6例ありました。このうち、2例は潜在性結核感染症の報告でした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌の患者の報告が、県央地区から1例ありました。今年これで5例目となりました。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・梅毒の患者の報告が、中部地区から1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・インフルエンザは、これまで3週連続して減少していましたが、この週は増加に転じました。県央、中部及び釜石の3地区で警報値(定点あたり患者数30人)を超えました。また、前週より患者数が増加した地区は、この3地区の他、盛岡市、奥州、大船渡の計6地区です。医療機関での簡易検査キットの結果では、B型が増えています。流行がA型からB型に移り、同じシーズンに2度罹ることがあるので注意が必要です。予防には、手洗いと咳エチケットが重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、二戸地区で定点あたり患者数10人を超えました。中部地区の幼稚園でノロウイルスによる集団感染事例が発生しました。本疾患の感染経路は、経口感染で、患者の便や吐物には大量のウイルスが排出されるため、それらの適切な処理と、石けんと流水による手洗いが重要です。
 - ・溶連菌咽頭炎は、盛岡市及び二戸地区で警報値(同8人)を超えています。県内では、報告数の多い状況が続いており、例年春にかけて増加するので、さらに注意が必要です。予防には、手洗いやうがいが必要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		6	7	8	9	10		
インフルエンザ	岩手県	32.88	29.31	26.86	25.94	26.6	↗	☆☆☆
	全国	39.97	37.16	36.12	35.35	28.2		
RSウイルス感染症	岩手県	0.35	0.33	0.13	0.13	0.18	→	☆
	全国	0.41	0.37	0.33	0.31	0.28		
咽頭結膜熱	岩手県	0.13	0.13	0.18	0.18	0.1	→	☆
	全国	0.37	0.36	0.32	0.3	0.28		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	6.23	5.25	6.03	5.3	4.95	→	☆☆
	全国	3.31	3.27	3.21	2.99	2.82		
感染性胃腸炎	岩手県	7.1	7.05	8.83	7.68	6.65	↘	☆
	全国	6.72	6.66	6.31	6.49	6.27		
水痘	岩手県	0.25	0.08	0.5	0.1	0.25	→	☆
	全国	0.37	0.4	0.34	0.35	0.32		
手足口病	岩手県	0.08	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02		
伝染性紅斑	岩手県	0.1	0.35	0.2	0.28	0.18	→	☆
	全国	0.52	0.44	0.46	0.49	0.42		
突発性発疹	岩手県	0.28	0.3	0.4	0.33	0.43	→	☆
	全国	0.35	0.37	0.34	0.35	0.36		
百日咳	岩手県	0.08	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.23	0.18	0.43	0.25	0.3	→	☆
	全国	0.73	0.85	0.8	0.79	0.86		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.07	0.07	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.71	0.21	0.36	0.21	0.36	→	☆
	全国	0.61	0.6	0.57	0.55	0.57		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.03	0.04	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.42	0.05	0.32	0.32	→	☆
	全国	0.48	0.52	0.48	0.44	0.5		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.03	0.01	0.03	0.03	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.21	0.11	0.11	0.26	0.32	→	☆
	全国	0.46	0.43	0.45	0.57	0.57		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	68	44	45	36	28		
	全国	1,461	1,377	1,389	1,240	920		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		6	7	8	9	10		10	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	7 (5)	6 (1)	4 (2)	3 (1)	6 (2)	39 (14)	367	4095
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	31
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	1	5	6	126
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	8
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	2
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	5	80
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	12	64
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	1	2
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	2
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	2	36
	デング熱	0	0	0	0	0	1	7	53
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	3	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	3	18	214	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	3	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 6	7	8	9	10	累計	10	206
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	2	14	226
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	3	46
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	2	1	0	5	15	266
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	1	0	0	0	0	0	12	244
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1	0	1	3	42
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	2	9	109
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	22	270
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	10
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	5	61
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	12
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	44	629
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	2	45
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	1	1	59	666
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	24
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	13
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	5
	風しん	0	0	0	0	0	0	2	18
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	3	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	6	

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後、急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットが重要です。

岩手県での発生状況は、2014年の第41週から、他の年に比較して多い状況が続いています。2016年の第6週には、県全体の定点あたり患者数6.23人と、調査を開始した平成11年以降で最多の報告数となりました。報告は増減を繰り返しながら推移しており、第10週は前週より減少しましたが、全体的には、例年に比べ多い状況が続いています(図1)。盛岡市及び二戸地区で警報値(定点あたり患者数8人)を超えています(図2)。今後とも注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>

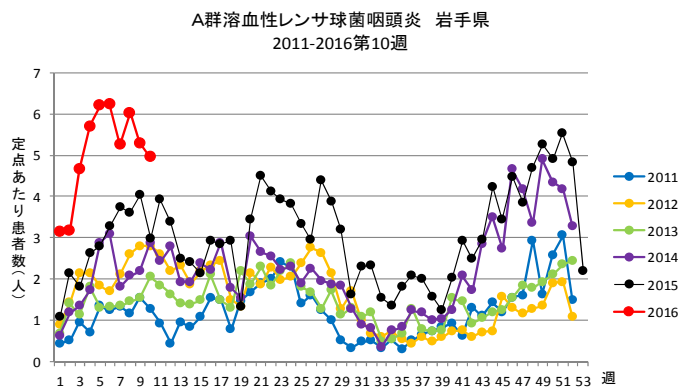


図1

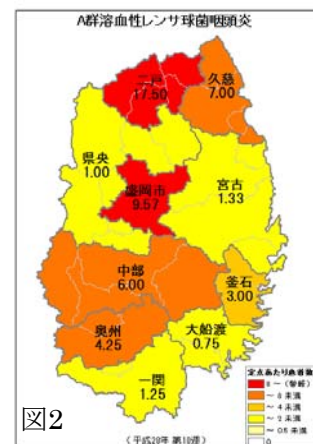


図2

今注目の感染症

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。症状は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れます。

岩手県の発生状況は、例年11月下旬から12月上旬頃から発生が始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加します。

今シーズンは、例年より流行の開始が遅く、定点あたり患者数1.00人を超えて、流行入りしたのは第1週でした。その後流行が拡大し、第3週には12.75人注意報値(定点あたり患者数10人)を超え、県から注意報が発令されました。第6週には32.88人と警報値(同30人)を超え、2月17日、警報が発令されました。患者数は第6週をピークに3週続けて減少しましたが、第10週には増加に転じました。今後とも発生の動向に注意が必要です。

当センターで実施しているウイルス検査では、今シーズンは、A(H1N1)pdm09が31件、B型が8件、A香港型が3件の順に検出されています。なお、医療機関から報告のあった簡易検査キットによる診断では、B型が増加し、A型とほぼ同数検出されています。

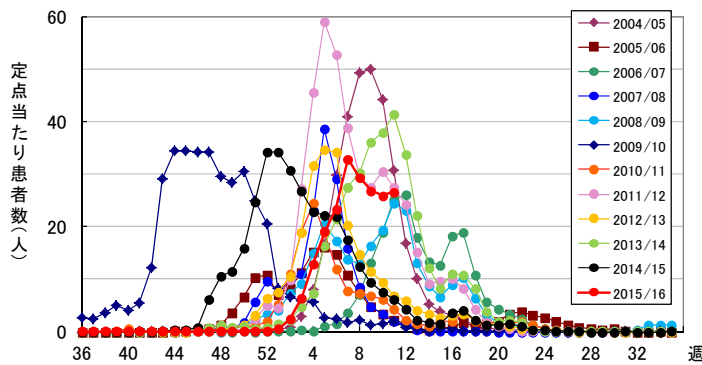
症状がある場合やかかったと感じた場合は早めの受診が勧められます。発症後5～7日間はウイルスを排出するといわれており、熱が下がっても、咳やくしゃみがある場合にはマスクをするなど、周囲への感染防止の配慮が必要です。

予防には、帰宅後の手洗い、咳エチケット(咳やくしゃみが出る時は、マスクをする・他の人に向けてしないなど)、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えることなどが重要です。

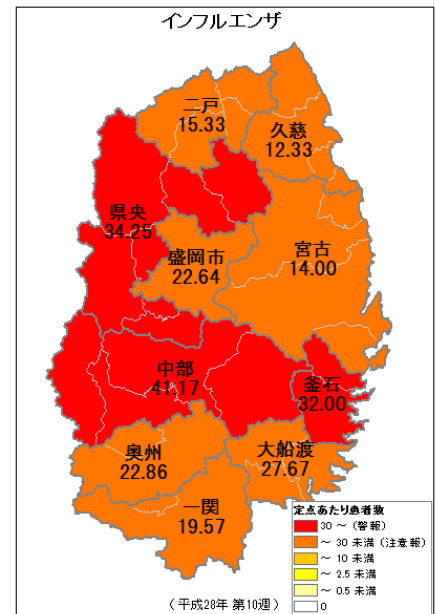
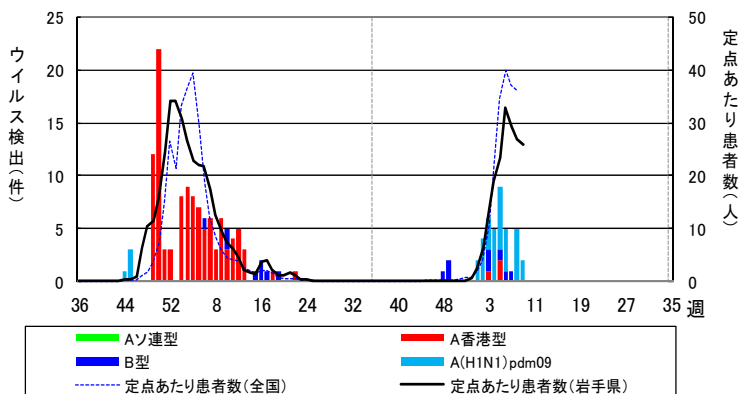
参考 厚生労働省 インフルエンザQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

インフルエンザ、岩手県



インフルエンザ患者数とウイルス検出数 (2014/2015～2015/2016シーズン)



第10週

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

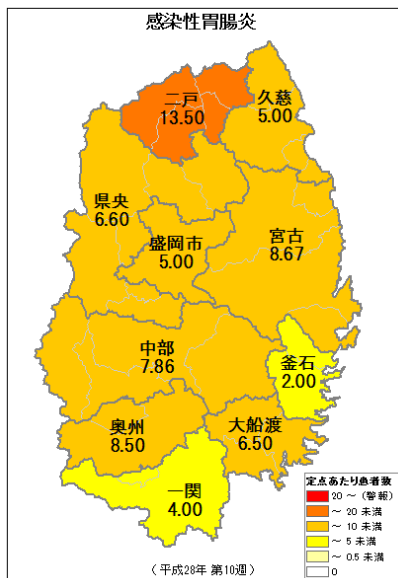
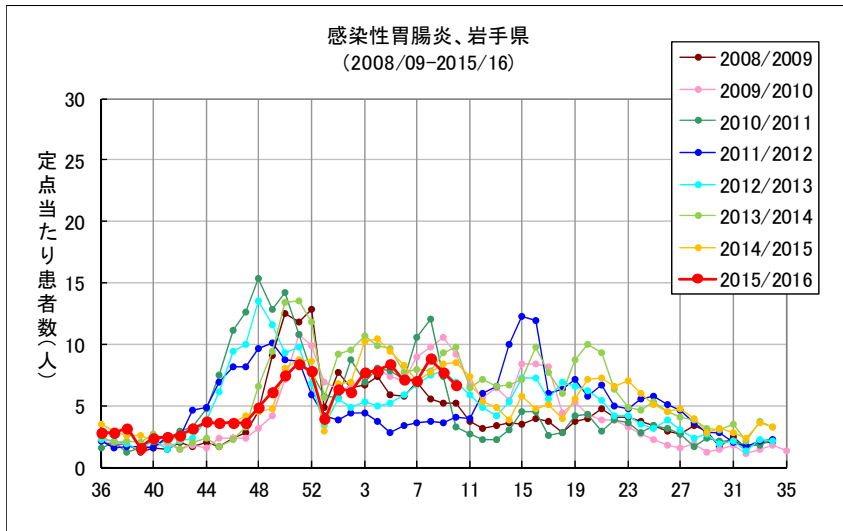
感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年、11月頃から増加し、12月にピークを迎えますが、2015年は報告数の少ない状況で推移しました。2016年に入ってから、県内では保育園、福祉施設、小学校等においてノロウイルスなどによる集団感染事例が報告されています。

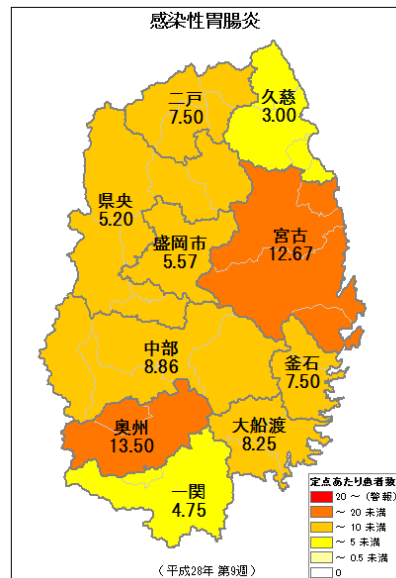
感染性胃腸炎の原因となるウイルスの感染経路は、主に経口感染です。感染力が非常に強いので、保育園など集団で生活する場では、注意が必要です。また、今後流行する可能性のあるノロウイルスGⅡ17変異株が岩手県でも検出されています。その予防には、これまでどおり、調理前、食事前、用便後に石けんを用いた十分な手洗い、食品の十分な加熱、ふん便や吐物の塩素系消毒剤による適切な処理が重要です。

参考 厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



第10週



第9週

病原体検出情報

- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、メタニューモウイルスを2件、アデノウイルス2型を1件、それぞれ検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、ヘルペスウイルス6型を1件、ヘルペスウイルス7型を1件、エコーウイルス30型を1件、それぞれ検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、ノロウイルス遺伝子群IIを6件、エコーウイルス30型を1件、それぞれ検出しました。
- ・不明発疹症の患者の咽頭ぬぐい液のから、ヘルペスウイルス7型を1件検出しました。
- ・突発性発疹の患者の咽頭ぬぐい液から、ヘルペスウイルス6型を1件検出しました。
- ・流行性角結膜炎の患者の結膜ぬぐい液から、アデノウイルス56型を1件検出しました。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

北上市内の幼稚園（園児258名、職員23名）

- ・3月3日（木）から3月8日（火）にかけ、園児14名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者2名からノロウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（3月10日～3月16日発表分）

- ・岩手県 17件
- ・盛岡市 5件

詳細は、岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/Influ/index.html>

医療機関からの情報

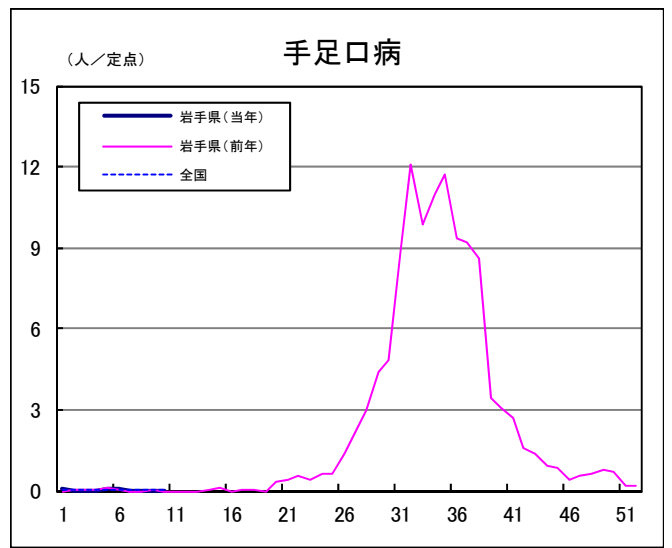
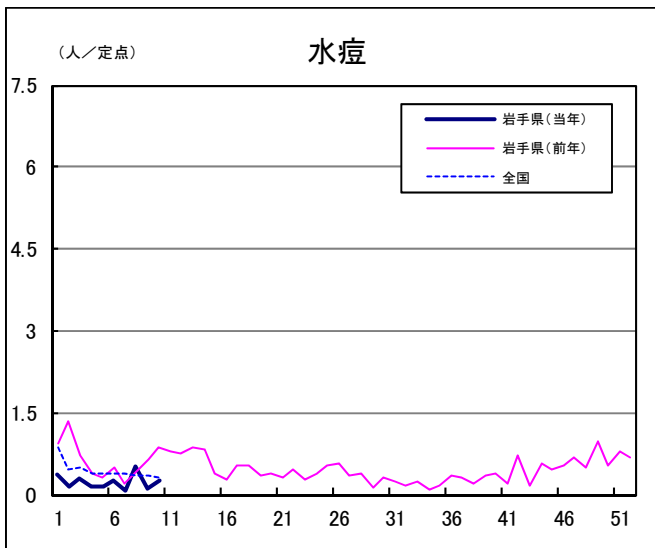
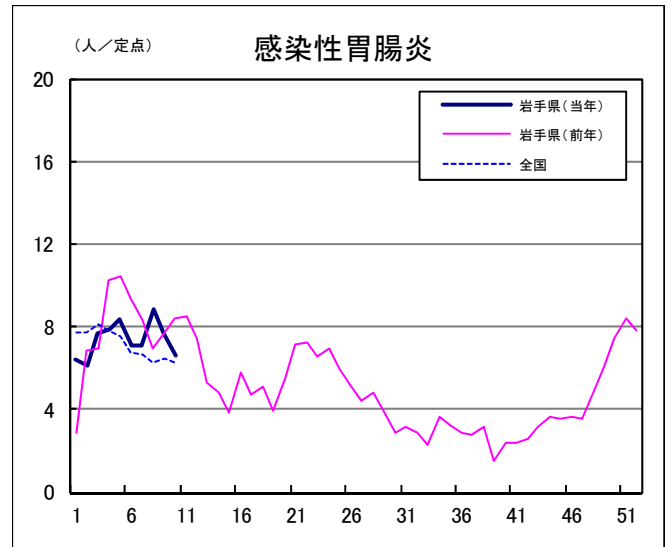
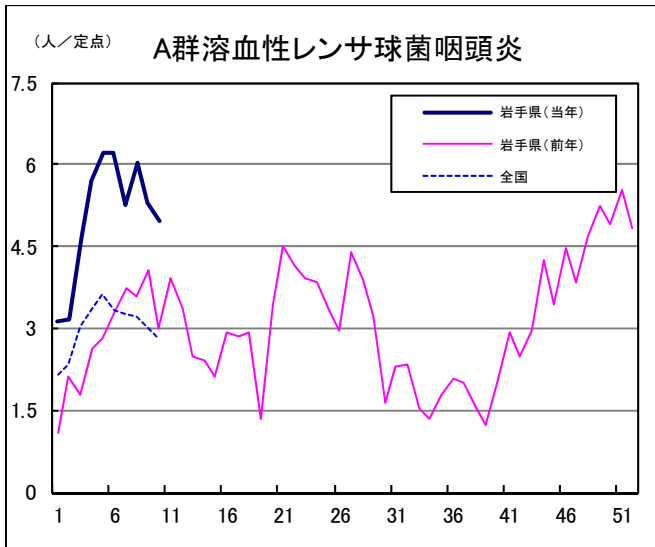
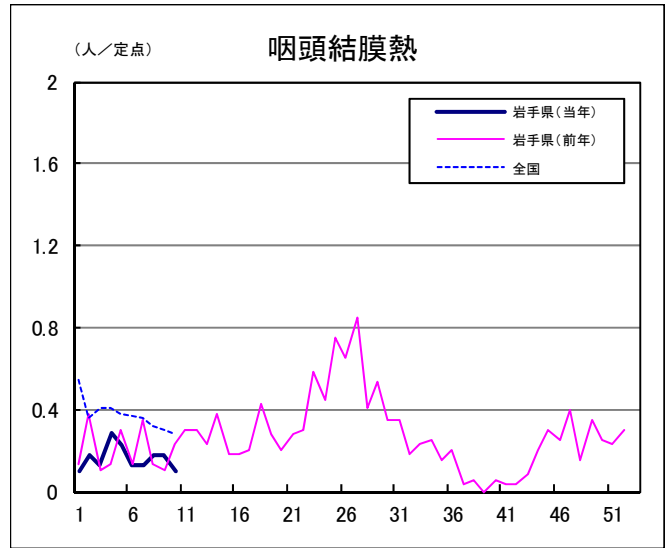
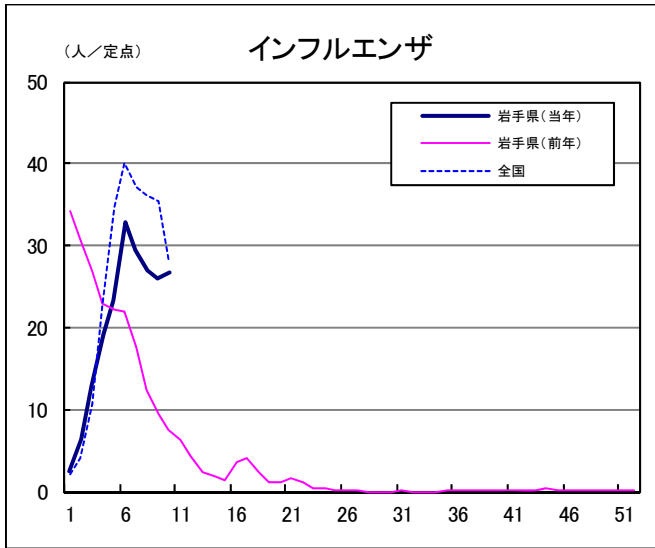
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

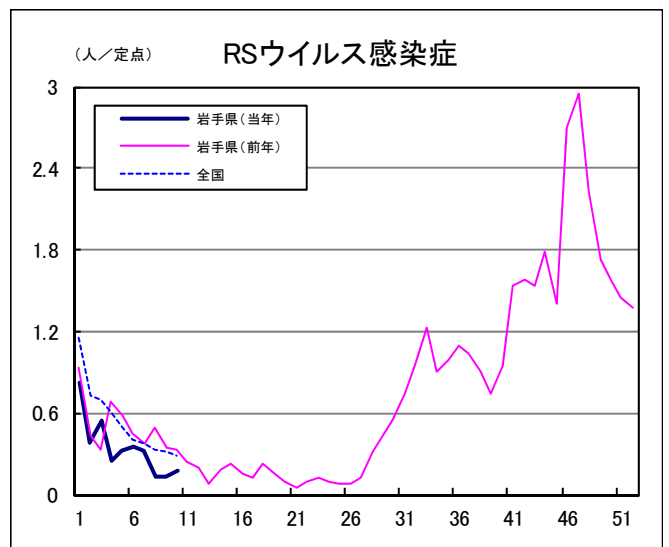
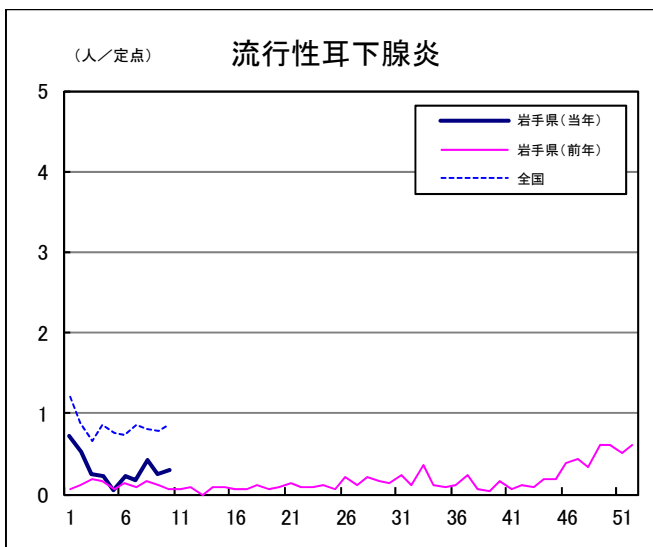
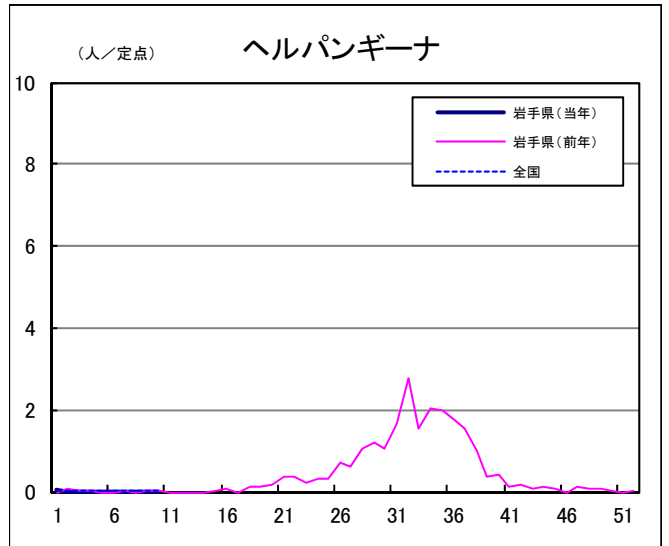
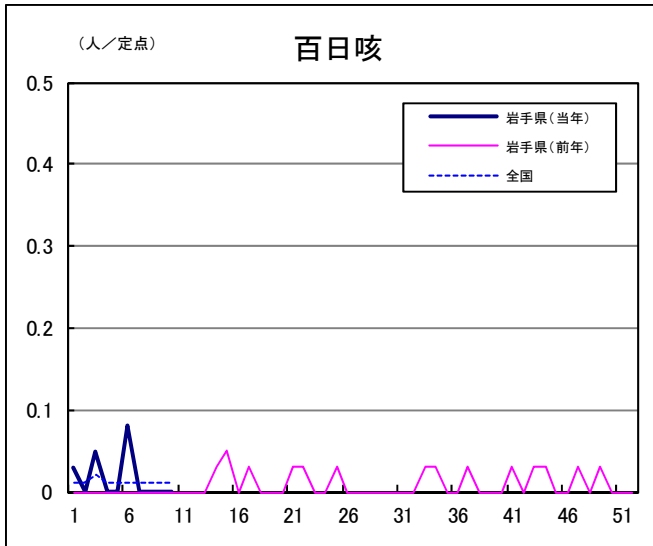
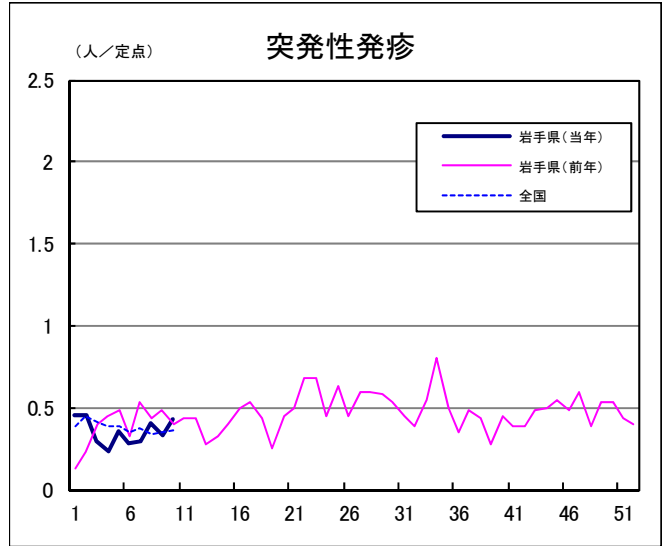
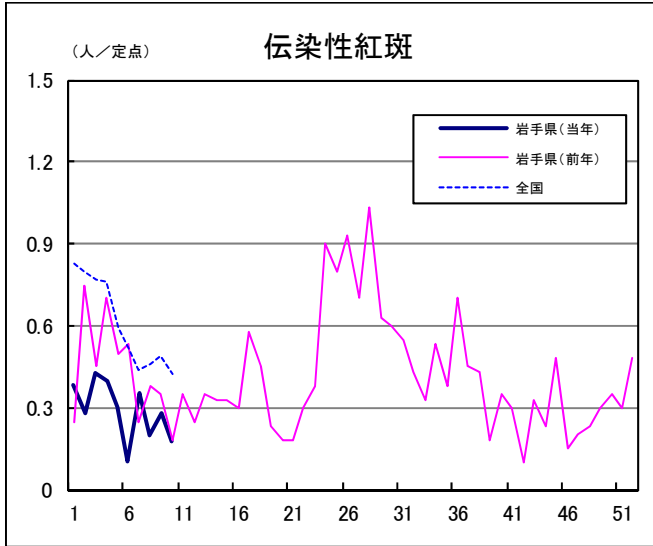
Q & A

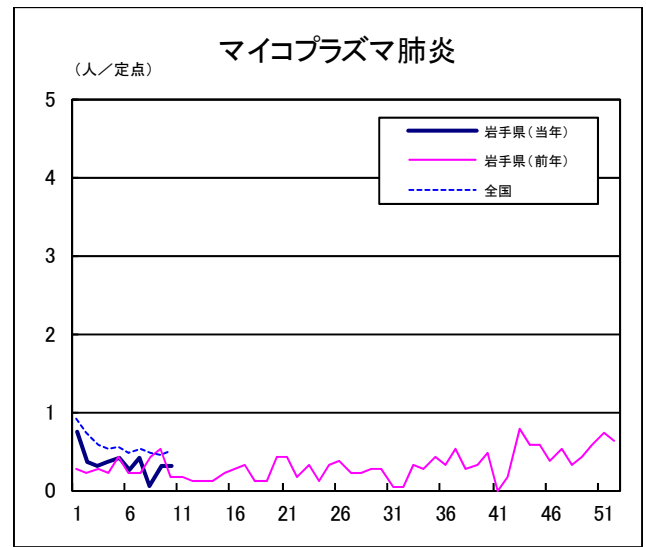
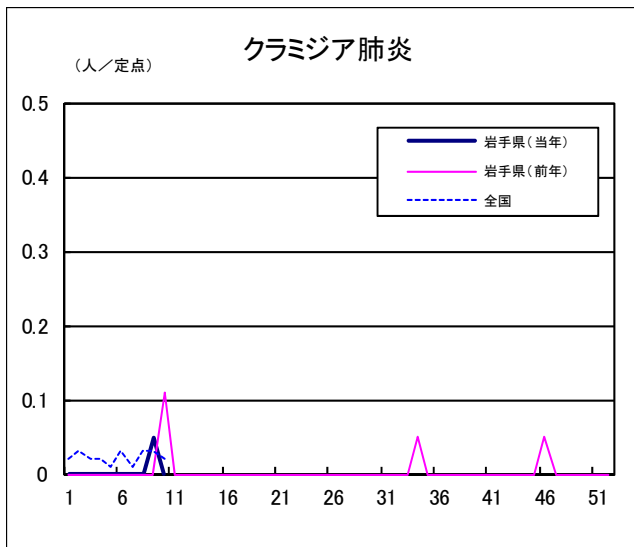
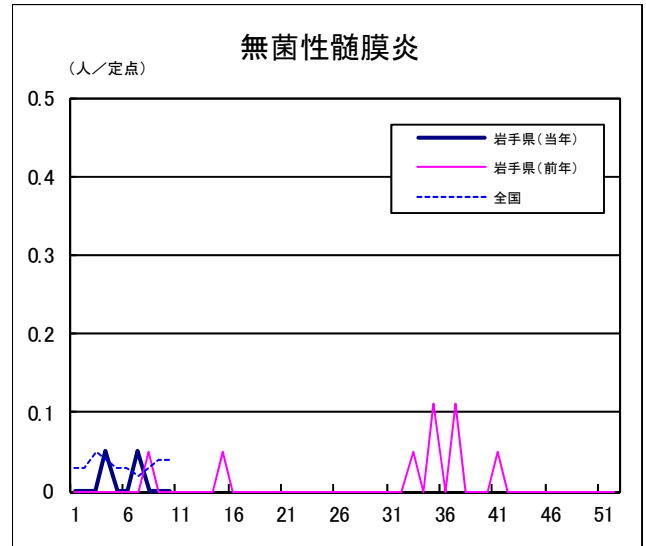
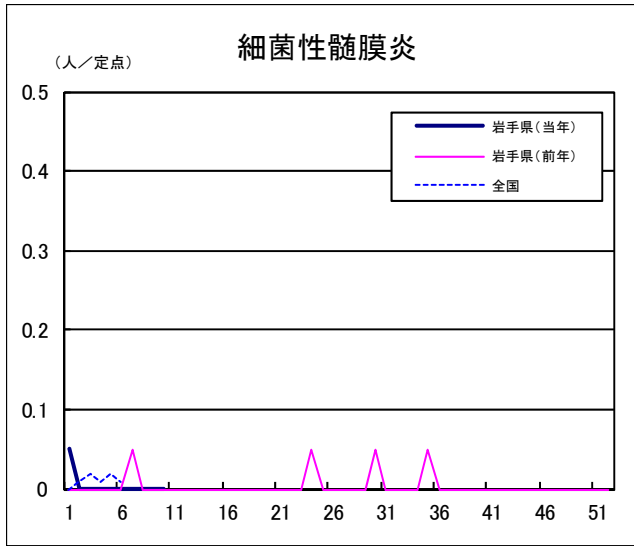
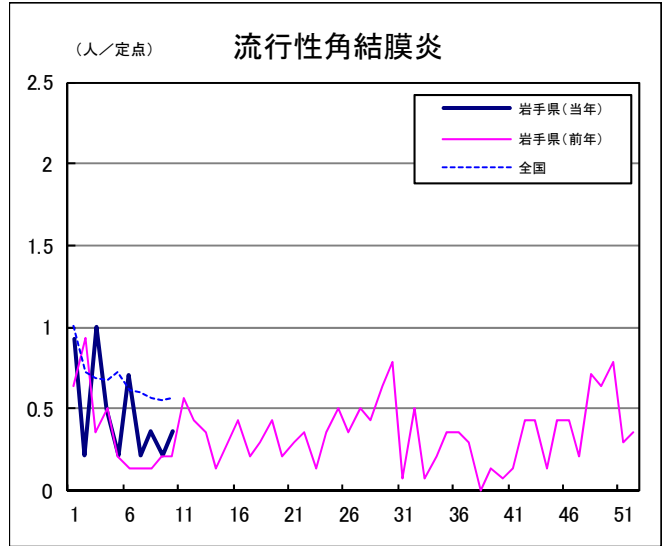
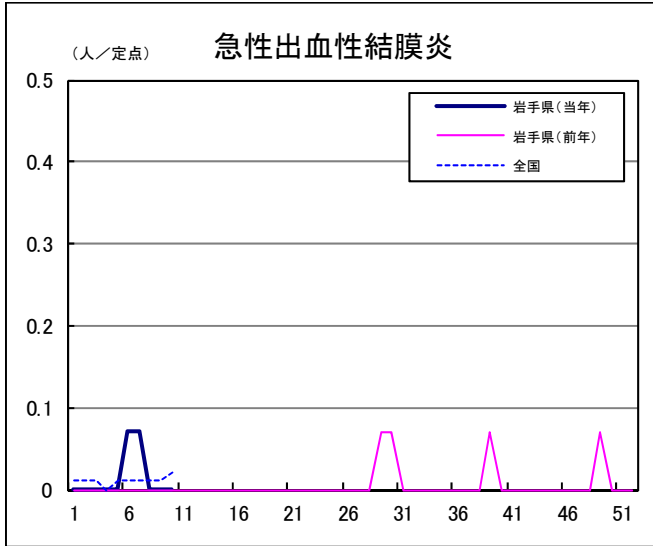
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)

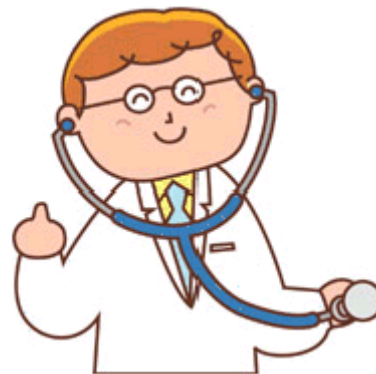






定点医療機関の数

地区	定点種別	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成28年第10週 平成28年3月18日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>